

JGA 第四支部 四国実地研修①②③ 2023年12月

12月4~6日に、第四支部の四国実地研修として、(1)祖谷溪、(2)高知、(3)いの町紙の博物館見学会を無事開催、終了しましたのでご報告します。講師は第四支部正会員の坂本文子さん。講師として、ガイドとして、そして各地から集った参加者にとっての四国のホスト役として惜しみなく経験を分けていただきました。

●2023年12月4日(月)四国実地研修(1) 祖谷溪(琴平発・高知着) 参加21名(会員12名、非会員9名)+委員1名、講師1名

朝日さす静かなJR琴平駅に全国通訳案内士がにぎやかに集い、予定通り08:15に出発しました。

象頭山を見上げながら、坂本講師が子供の頃から親しんだ「こんびらさん」のお話を聞き、せっかくだからと鞆橋を車窓に見て、琴平の町を後にしました。

色づいた讃岐山脈の景色を楽しみ、近年開通したトンネルで香川から徳島へと進む間にも、吉野川、池田ダム、香川用水など治水や人々の暮らしへと話題が及びます。

約1時間ほどで大歩危峡へ。「大歩危峡まんなか」の観光遊覧船乗り場まで降りて見学し、船会社のご担当から注意点を伺いました。その他のアウトドアアクティビティの選択肢として、リバーステーション West West も車窓で確認しました。



架け替え工事を間近に控えたかずら橋では、かずらの欄干にしがみつくようにしてこわごわ渡橋しました。

大歩危とかずら橋までは、高知からのショアエクスカージョンでもよくあるコースですが、今回の研修では、さらに奥祖谷をじっくりと訪問しました。小型バスまでしか入れない事が納得の山道を地元の運転手さんのハンドルさばきで縦横に進み、アレックス・カー氏が茅葺の古民家を宿泊施設として再生させた「ちいおり」がある里や、落合集落の展望所へ。重要伝統的建造物群保存地区でもある落合集落では、村のお宅の軒先におじゃまして、香ばしい祖谷番茶と焼き芋のおもてなしを受けました。そのまま一緒に集落をご案内し

ていただきましたが、健脚の地元の方にやっとなついていながら、急勾配の山肌に作られた村を実感しました。昔の様子を保存した茅葺の住宅と、内部をモダンに改装した FIT に人気の古民家宿泊施設も見学しました。

祖谷溪の手配には、地元 DMO の「そらの郷」に全面的な協力をいただき、同行いただいた出尾様の名調子で楽しくにぎやかな研修となりました。徳島県と三好市からもたくさんの資料のほか、各所でご高配をいただきました。

日が傾く中、竜宮崖のつり橋、ひの字溪谷、小便小僧も見学し、トイレ休憩を兼ねたホテル見学など、たっぷり祖谷溪を見学して、バスは高知へ。予定の18:30に高知駅前に到着、解散しました。



●2023年12月5日(火) 四国実地研修 (2)高知(高知駅発着)

参加28名(会員14名、非会員14名)+委員1名、講師1名



朝早い集合にもかかわらず高知県観光コンベンション協会が駅まで届けてくださったノベルティと資料を手に、大型バスへ乗車。

08:00に高知駅北口バスターミナルを出発し、曇天の中、まずは高知新港へ。

高知県港湾振興課のお取り計らいでターミナルを特別に開けていただき、客船入港時の動線やサービスについてのご説明付きで見学できました。



新港や五台山の位置関係と距離感を車窓に確認しながら龍馬像の待つ桂浜へ。雨が降り出し、ひろげた傘で周りが見えず、団体で動きにくいのはツアー本番さながらですが、高低差のある場所でペースの異なるお客様を案内するためのコツ、今やガイドの大事なスキルでもある“映える”写真の撮れるスポットを坂本講師がしっかりとポイントをおさえて案内してくれました。桂浜は波にさらわれやすく危ないので、波打ち際には近寄らないこと!



坂本龍馬記念館では、全国通訳案内士の視点からのアドバイスが欲しいと館長はじめスタッフ総動員でアテンドしてくれました。

今回の研修では、高知市内だけでなく、近郊へのツアーにも対応できるよう、仁淀川をのぞむ高知アイスの売店、名越屋沈下橋、「紙の町」いの町の土佐和紙工芸村くらうとと榎本(すぎもと)神社にも足をのばしました。景色の美しさ、土佐和紙など、高知エリアをご案内する引き出しが増えそうです。

高知市中心部の土地勘を得るために、高知公園駐車場にバスをとめ、昼食休憩を兼ねて時間をとりました。迫力ある石垣を眺めながら石段を途中まで登って高知城の案内動線を確認した後、高知城歴史博物館の無料ゾーンを通り、ひろめ市場へ。その後の昼食休憩時間に、天守や博物館、あるいは地元グルメと、参加者それぞれに時間を有効活用されていました。



最後は五台山へ。「らんまん」の影響で訪問者が急増したという牧野植物園があるのは元は竹林寺の土地。当時の住職の理解によって誕生した広大な牧野植物園と、四国霊場三十一番札所五台山竹林寺は高知観光でははずせないポイントです。時間が限られる時に二か所を組み合わせる際の選択肢として、竹林寺には五重塔に近い西門から入り、正門へとおけるルートで拝観しました。正門から徒歩で駐車場を通り牧野植物園へ。広大かつ多種の植物が見られる牧野植物園のご案内は難しい所。迷わずに散策を楽しんでいただくにはどういう方法があるか? 参加者も一緒に考えながら、一例として、屋内展示を交えて出口へ誘導するハイライトコースで見学しました。現在閉鎖中の南門が開けば、また違うルートも考えられます。

雨による渋滞も心配されましたが、順調に進み、16:30頃に高知駅に到着。バスや列車ですぐ帰路につく方、もう一泊してさらに高知をきわめる方、皆さん元気に挨拶を交わされて解散となりました。

地図を見せる際の工夫、小学生の副読本、図書館から借りた重たい本、ご自身の思い出の品など、坂本講師の周到な準備とこまかやかな心遣いにもおおいに刺激を受けたという声がきかれました。



●2023年12月6日(水)午前

四国実地研修(3)〈見学会〉かみの町、いの町に行こう!いの町紙の博物館見学会(高知)

参加11名(会員6名、非会員5名)+委員1名

高知からJRで伊野駅へ。昨日はバスで通った道を歩き、街の風情と景色を楽しみながら、「いの町紙の博物館」を訪問しました。

充実した解説展示を学芸員の方に案内していただき、ガイドならではの多くの質問にも答えていただきました。また、手漉き和紙の作業風景を間近に見学し、紙の匂いをかいだひと時でした。「和紙」としてひとまとめに考えがちですが、知れば知るほど、その定義は簡単ではありません。また、明治の近代化に対応し生き残ってきた歴史を知ることで、「伝統産業」というだけでなく土佐和紙の深い歴史を知る機会となりました。



なお、宿泊での参加者が多いことから、12月4日には希望者対象の夕食交流会を企画し、26名が参加されました。カツオのたたきなど地元名物の食事の後、女将さんのご厚意で、「べくはい」を体験し、高知のお座敷遊び、人づきあいについても教えていただきました。

お世話になりました各所の皆様に感謝申し上げます。

トラベルコンパニオン(2024年4月号を予定)には計9ページの詳しい研修報告が掲載される予定です。お楽しみに。

(文中敬称略)

四国実地研修担当 伊藤淳子